

の看護界はまだまだ非力。これからも、「なんとかせんといかんー!」思う日々です。

◆活力をくれる「遊び」。仕事のインターバルに役立った

これまで、何ごとにも全力で取り組んできましたが、私は「遊び」も真剣(笑)。何か次のステップに移る前のインターバルで、「遊び」旅行の要素を取り入れるのです。

最初は大学を卒業後、大学院に入る前に中国に。当時、中国は日本とは国交が途絶えていて、日本から一番遠い国。社会主義国家を目の当たりにしました。

役人を辞めて、慶応義塾大学に行く前にはバリ島に。そこでは「死」に対する考え方の違いに驚かされました。また、日本看護協



看護協会会長の任期終了後、ニュージーランドのミルフォードでトレッキング

会会長職の後には、ニュージーランドでトレッキングし、4日間歩き通しました。そしてアメリカ留学は、「遊び」ではありませんでしたが、さまざまなカルチャーショックがありました。そんな経験は、知らず知らずのうちに実となり、スランプに陥ったときの意識チェンジになったように思います。

◆走るのは大の得意。伴走者を置いて走り続けました

学芸時代、得意だったのは走ること。駅伝の決勝戦のとき、自転車で伴走の級友が急にバタツと倒れてしまったのですが、「節子、かわまず走れ!」と言うので、必死になって走りました。もちろん、マラソンも私が一番!

担任は宮地先生。私、先生にす



学芸時代、駅伝で田んぼの畦道を走る



宮地先生の結婚披露宴にて。クラス代表で「こんにちは赤ちゃん」を歌う

ごくあこがれていたのに、「問題集を忘れた者は出て行け!」と言われて、率先して校庭に出て鉄棒で遊んだのです。今となっては、良い思い出(笑)。

◆仕事を持って続けること! 自分の力を発揮してほしい

人生の先輩として、後輩たちに言いたいのは、人生は「人間万事塞翁が馬」ということ。不幸は予測しがたく、私も「しまった!」と思うときもありましたが、そのときは新たな人間関係を築いて、次のステップに活かしました。

特に女性は、家事も子育ても大事だけれどぜひ仕事を頑張って、それを続けてほしい。何かひとつのことには打ち込まないとわからないこともあるし、そこでの出会いや



取材後の記念写真 左から 岡本洋(8期)、久常さん、國藤直子(16期)、石川明男(6期)

経験はかけがえのないもの。でも、頑張るだけ頑張つて、「もうダメ」と思ったら、そこから逃げることも必要。但し、私みたいに留学という形を取るなど、かつこよく(笑)逃げることは常にかつこよく生きたいと思つてきたから、人生の分岐点も私なりに乗り越えてきたと思うのです。大きな世界ではなく、私が選んだのは看護という世界でした。社会的にも教育も確立されていなかったからこそ、常に「これではいかん!」と力を入れてやってこられたのかもしれない。自分の可能性は無限。たくさんの方が広がっています。恐れずに踏み出してください。

各期の声

交遊録

能勢 秀樹（9期）

私は学芸高校時代は山岳部でした。顧問の羽方先生に引率され四国山地を歩き廻りました。そんな四国の山と自然に接した



ネパールのピーターキング氏が建てたロッジで。
後列右から2人目が能勢さん、中央がディディー・キングさん。
その左は能勢さんの娘さん、前列右は能勢夫人

その友人の家は、米国ボストンから車で西に1時間半ほどのメープル林の中にありました。彼がガンで亡くなって2年、奥さんのディディーを妻と一緒に訪ねました。彼の名はピーターキング。私がオークやメープルの製材品を買っていた頃からの20年来の友

人です。

ピーターの病気の知らせに驚き、娘夫婦を見舞いに行かせたのは、彼の死の1週間前でした。

娘は高校時代から夏休みはピーターの家滞在中のを楽しんでいましたが、その年は9月11日のテロ事件が起こり、帰国できなくなっていました。10日後、彼はワシントンD.C.まで車を走らせ無事帰国させてくれたのです。

ピーターが亡くなって1年後、ディディーからの連絡は「ネパールで散骨したい。ついては来てくれますか」と言うものでした。妻と娘の3人でネパールまで行きました。

現地は首都のカトマンズからガタガタ道を5時間以上走った田舎町、バンディプールです。ピーターが若い頃につくったロッジに泊まり、そして彼が開設し援助を続けていた小学校を訪ねました。

あくる日、ヒマラヤの山々の見える丘から、サラサラの遺骨をまきました。

ピーターの残した学校や、育てた人々。多くの人に慕われた友人を持った事に誇りを感じます。

奥さんのディディーは今年の10月には又日本に来てくれます。台湾の侯さんとも長いお付き合いで、今では子供たちの世代も交えて行き来しています。シンガポールのピーター・シーさん、インドのファザールさん、韓国の権さん。学芸時代の日本史の横川先生が卒業前の最後の授業で「土佐の海は世界を向いている。君達は世界を目指せ」と言って下さった言葉が忘れられません。後輩の皆さんが世界で活躍し、多くの友人を持てる事を期待しています。

短くも楽しかった

東京生活

熊沢 慎一郎（18期）

20年ぶりの東京、また15年ぶりの支店勤務ということで緊張と不安を抱えて東京支店（四国銀行）へ転勤してきて早いもので2年になりました。赴任当初は、都会でのビジネススマナーから仕事のことまで教えてもらいながら右往左往していたのがつい昨日のことのようです。

仕事のこととはさておき、久しぶ



沖縄にて 熊沢さん

りに東京へ来てまず考えたことは、人生の中で今後東京で生活する機会はないだろう、高知へ帰るとなかなか行けないようないろいろなところへ行ってみようということでした。

軽井沢、黒部、日光、沖縄などへ足をのびました。写真は沖縄での1枚ですが、写真を撮った翌日、東京へ戻ると大雪でした。

また、東京はスポーツ好きの私にとっては身近にイベントが多く魅力的です。東京ドームでの野球、国技館での相撲、アイスホッケー観戦などを楽しみました。

ご存知の方も多いと思いますが、

四国銀行野球部は都市対抗野球にたびたび出場していません。今年は予選で敗退し出場できませんが…。都市対抗ということで高知市代表として出場してはいますが、出場したときには多くの高知県出身の方が東京ドームに応援に駆けつけてくださいます。試合の時には、よさこいから始まる郷土色豊かな応援が繰り広げられます。次回、四国銀行が出場した際には、是非東京ドームまで足を運んでいただき応援いただければと思います。

東京へ来て、多くの高知県人の集まりがあることを知りました。私も仕事関係を含めいくつかの会合に出席しましたが、多くの高知県人が東京で活躍していることを知り、とても嬉しく思いました。

東京では高校卒業以来の懐かしい顔に会えましたが、同窓会関東支部にはもっと多くの方が集まっ

ていると期待していたので少し残念でした。

と、この原稿を書いている間に神戸へ転勤することになりました。東京に心残りはたくさんありますが、東京の高知県人会、また学芸の同窓会関東支部の人の輪が広がり、ますます盛大になることを期待して、東京での最後の仕事（少し大げさですが）とさせていただきます。

（熊沢氏は、本年7月に四国銀行東京支店から神戸支店に転勤されました）

尊敬する後輩へ

エールを送ります

（町内会の掲示板のご縁より）

久里 きなこ（23期）

昨年10月。こんな偶然があるのだろうかという出来事があった。

ある日、私は歌発表会の広告チラシを新宿区若葉町一丁目目の掲示板に貼りに行った。



左：きなこさん、右：坂東真夕子さん（37期）

そこに何か気になる「現代の寺小屋」柔道×勉強×英語×学童・塾生募集中！・文武一道塾志道館・館長・坂東真夕子のチラシを目にした。オーストラリア、イギリスの先生が道着をつけた姿も印象に残った。数日後、8期生の岡本さんから「37期の坂東さんが、あなたの発表会のチラシを見たよ」とフェイスブックに書いてあるよ」と教えてくれた。エーツ！あの気になる志道館館長・坂東真夕子さんは学芸高校OB、37期生だったのか…。

彼女とは関東同窓会幹事会の集

まりで一度会ったことがあり、その清々しさは印象に残っていた。それにしてもこんな偶然……。この辺りは一つの町内がとても狭いエリアになっており、小さな道ひとつまみでもすぐに隣の町内なのだ。学芸の同窓生が広い関東でこんな小さな町内にいるとは偶然、否、奇跡に近いことだ。

坂東さんが開塾するキツカケとなつたのは、二カ月前、知覧特攻平和会館を訪れた時、10代、20代で命を落とした青年たちの遺書の字の上手さに感銘を受けたそう。若くしてこんなしつかりした文字と文章を書けるのは教育だ。国を支えるのは教育だ。と思い一念発起、開塾されたそう。自身で考えた志道館五訓。

一、親に感謝しよう
一、志を立て学び続けよう
一、相手を思いやる心を持つよう
一、覚悟を決めてやり遂げよう
一、世の役に立つ人になろう

幼年部・少年部・成年部とあり成年部には62歳で宇都宮から通って入塾された方もいるそう。学芸時代は柔道部顧問・門田先生に弟子入り、先生の家族同然に生活し、全日本女子学生柔道選手権優勝・世界学生柔道大会準優勝・イ

ギリス国際柔道大会3位。大学卒業後警視庁入庁。一般企業を経て志道館開塾。

鍛え上げた身体からは歯切れのいい声と言葉が飛び出し、凜とした佇まいは清々しい気持ちにしてくれる。

四谷志道館を是非訪ねてみて下さい。

テーブルで気軽に

お抹茶を楽しむ生活

大澤(住友) 美智子(33期)



抹茶教室の大澤さん

(ブログ)

<http://ameblo.jp/mattyahappy-life>

大学進学と同時に上京し、卒業後も都内で一人暮らしをしながら会社に勤め、その後、結婚・出産・育児……

振り返ると、あつという間の日々。学芸高校同窓会会報の原稿のご依頼を受け、改めて振り返ってみると、学芸高校卒業から、20年を超えておりました。

現在は、主人と2人の小学生、家族4人で、横浜で暮らしております。

大学卒業後、メーカーの海外営業本部で輸出入関係に携わり、退社後は社会保険労務士の国家資格を取得するも、妊娠・出産で、子育て中心の生活をしておりました。2人の男の子に恵まれ、少し育

児も楽になってきた去年の夏頃。自宅で小さなお教室を始めました。「テーブルでできる気軽なお抹茶教室。お抹茶Happy Life(横浜市青葉区)」。

茶道の流派や形式にとらわれず、茶道のエッセンスを取り入れながら、お抹茶を楽しみ、生活に活かすことをご提案する新しいスタイルのお教室です。

茶道というと、敷居が高いイメージをお持ちの方が多くですが、抹茶は健康にも美容にも良いドリンクの一種でもあるので、もっと気軽に抹茶を点てたり、おもてなしの一つになるようなご提案をしています。

お陰様で自宅教室のみならず、外部からも講座やイベントのご依頼も頂くようになり、家庭や子育てとのバランスを取りながら、趣味を生かした仕事を自宅でできていることに、感謝の毎日です。

そう言えば、お教室や外部イベントで、高知銘菓をお茶菓子として出したり、ブログで高知の特産をご紹介しますこともあります。無意識の高知愛でしょうか(笑)

お近くでご興味のある方は、是非ご一緒にお茶の時間を過ごしませんか？

6代目の校長に

橋本和紀氏（20期）



2014年4月1日、高知学芸高等学校校長に橋本和幸氏（53歳）が就任されました。

前校長の村岡高光氏（8期）は2004年から10年間の長きに亘り校長の重責を果たされ、この度、橋本氏にバトンタッチし、大幅な若返りが図られました。

橋本新校長は、1979年高知学芸高校を卒業、1983年大阪大学理学部卒、同年4月高知学芸高等学校に勤務（数学）されました。2004年～2010年に高校進路部長、2010年～2014年3月まで高校教頭を務められました。橋本新校長のご活躍を期待いたします。

2013年秋の叙勲

國見 昌宏氏（1期）が

瑞宝重光章を受章



昨年11月6日、秋の叙勲で國見昌宏氏（72歳）が栄えある瑞宝重光章を受章されました。勲章は皇居で安倍晋三内閣総理大臣から授与され、その後、豊明殿で奥様とともに天皇陛下にも拝謁されました。瑞宝重光章とは、公共的な職務の複雑度、困難度、責任の程度などを評価し、特に重要と認められる職務を果たし成績をあげた人に

高知学芸高等学校同窓会関東支部 会計報告

（期間：2012.10.1～2013.9.30）

2013.10.26

（単位：円）

区 分	項目及び概要	金 額
【収入の部】	1. 前期繰越金	820,957
	2. 第25回（2012年）総会参加費	824,000
	3. 年会費 ・総会当日分(194,000円)、振込み(377,880円)	571,880
	4. 祝金（同窓会本部、学芸高校）・寄付金	139,000
	5. 銀行利息	124
	収入・計	2,355,961
【支出の部】	1. 第25回（2012年）総会関係 ・総会会場・運営費用（学士会館 739,200円） ・講演関係、懇親会景品代（104,435円） ・その他 105,231円（講師宿泊費、旗代、郵送費、コピー代等）	948,866
	2. 機関誌作成・案内状発送 ・「あさかぜ26号」制作費等（463,576円） ・データ諸費用（サラト 14,889円）	478,465
	3. 幹事会会場費	8,870
	4. 高知県人会 協賛広告料	30,000
	支出・計	1,466,201
【残高】	1. 次期繰越金	889,760

対して授与される勲章です。國見氏は、1960年高知学芸高校を卒業、1965年防衛大学1993年陸上幕僚監部調査部長を経て、1996年陸将に昇任、第18代第10師団長。1997年初

代情報本部長に就任、1999年に退官。その後、2001年～2005年に初代内閣衛星情報センター所長を務められました。國見先輩、おめでとうございます。